

計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

会報 2008-3

発行日：平成20年3月5日

発行元：計画・交通研究会

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489

E-Mail= jimukyoku@keikaku-kotsu.org

Homepage=http://www.keikaku-kotsu.org/

目次

Opinion	1-2
クロスボーダー時代の都市	
News Letters	2-3
事業報告・活動報告	
Announcement	3
研究会・催事の御案内	
Backyard	3-4
事務局通信	

□ Opinion

クロスボーダー時代の都市

水野高信

この数年海外に出るといって、東南アジアや中国のいずれも新興地域の活気のある都市ばかりで、ダイナミックに変っていく様相に眼を見張った。その勢いは物理的な構造変化や経済活動だけでなく、文化など社会生活全般のソフト面でも変化をもたらしていくのも必然と思われる。それらの国の諸々の経済・社会指標の増減率を日本と較べると、大体において日本のほうが相対的に低く、それが都市活動にも停滞感を与えているのであろう。

中国が、アジアそして世界の経済活動を動かす原動力であるのは確かとしても、またアセアン諸国や台湾などに局所的に軍事的な緊迫感があっても、国単位を超えた経済活動のネットワーク化や国際分業は急速に進展し、それがアジア地域全体の物や人の交通ネットワークにも大きく変化をもたらし、今後しばらくは一段とスピードを上げそうだ。たとえばインドシナ半島のメコン諸国の交通のネットワーク化への動きは、国民国家主義を抑え味にしなから、やがては小さなEUを遠くに目指しているのだろうかときえ思える。

そのEU地域では、道路や鉄道は政治経済上の障害や、アルプスやピレネーなどの自然障害を貫いたネットワークがさらに構築されていき、経済活動のスピード化・大規模化だけでなく、いまや個人の移動もクロスボーダーの時代に入った。

歴史をたどってハプスブルグ朝の頃、モーツァルトやショパンが諸国演奏に回り、ウィーンでイタリアオペラが賑わい、平時の文化往来が華やかになったのは、多民族統治に腐心し、一段と軍用道路ネットワークが整えられたことであろう。また、19世紀後半の仏で産業や軍事目的ではあったが、鉄道が張り巡らされたおかげで、モネやピサロなどの印象派画家はそれまでの画派とは違って郊外に出て、光や空気の表現に新たな魅力を生み出した。オーストリア出身の経済学者シュムペーターは『郵便馬車をいくら連結しても鉄道は得られない』の例示をあげて『創造的破壊』（現代のイノベーション）という名セリフを残した。それほどに交通ネットワークが社会全般に与える影響は大きい。

ひるがえって日本を見ると、戦後復興—高度成長—バブルとその崩壊—失われた10年を経て、メンタルに鬱状態に入ってしまったのだろうか。海外から見ても魅力が失せてきたらしく、経済活動でも依然として対日投資は少ない。日本の都市はたしかに清潔で美しくなったものの、魅力は薄れてきた。国内での諸格差や対外規制の問題を論ずるあまり活気を生み出せていない。格差について海外と比較しても、日本は少ないほうであろう。均衡ある国土づくりより、不均衡ではあっても創造的な都市づくりで人を、経済活動を呼び寄せる段階

にきたのではないだろうか。外に出ていこうとするだけの国際化は過ぎ、規制の変更により外からも力を入れていく事態になった。英国を見ても、空港・水道・電力など社会インフラまで外資導入しても雇用や需要は向上し、ましてや歴史や文化が奪われたわけではない。日本も明治の文明開化を想起し、

外から文化・経済を受け入れていければ、それに応えるような都市構造の変化をもたらし、豊かな国を持続できるのではないだろうか。

(計画・交通研究会 法人賛助会員/
鉄建建設(株) 常任顧問)

□ News Letters

事業報告・活動報告 □

■2007年11月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅶ講・第14回)

●日時：平成20年1月23日(水)17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

「当て塾」塾長 鈴木忠義 先生

地区・観光開発 (=観光地づくり) の研究事例としてーみんなでつくる川場村の門前地点から田園プラザまで(約2km)の景観づくり

●参加者：12名 (うち計交研関係4名)

[講義概要]

「みんなでつくる美しい道」((社)道路緑化保全協会、2007.5)は総合カタログとして作成したもので、“どうやってつくるか”という技術的なことは示しておらず、実践を進めるためには各論の事例が必要である。そこで、川場村で検討を進めている道づくり(=景観づくり)を題材に、事例(この場合は企画提案書)の構成について解説した。

川場の事例では、大学の先生に造園施工業者が加わって、造園技術的に詰めていくこと、作業密度を高めることを議論している。

1. 主旨 (原論の要約)

下記の体系に示すように、各論は原論から周辺諸学までを応用しなければならない。そこで最初に、原論の要約を記述する。その内容は、対象の概念と、関係する原理・原則、および人間にとっての意義・役割である。

学と術の体系

1 原論	2 方法論	3 手法論	4 周辺諸学
5 各論			

2. 方法論

(1) 企画の立て方

観光は後発の学問であり、計画から運営に関しては、土木、建築、造園、経済等の他の学問分野に示されている事柄が多い。ここでは、何を造るかという「企画」を示すことが急所である。合意形成を図り、どのようなタイムスパンで実現するかを示す必要がある。

(2) 制約条件・前提条件の整理

土地が決まると、自然・歴史・経済社会の制約条件が決まる。ここにはプランナーの意思は入らない。大前提・小前提などの前提条件は、プランナーが提案することができる。

(3) 路線の選定

路線の選定理由について、以下の項目で説明する。現場の人達とプランナーが協議しながら、詰めていく事項である。

川場の例では、門前にある由緒ある吉祥寺と集積のある田園プラザを終起点とした約2kmの範囲が路線である。足元から遠景までを含めた景観づくりを示すとともに、途中の橋からの眺めなど道中を楽しみ、滞留し、感動して繰り返し訪れる場となることを描く必要がある。ここでは、プランナーの構想力が重要である。

①点・線・面からの選定

②どうゆうものができるのか

ーイメージと可能性

③急所の選定とイメージの深化

④起終点の重要性

⑤面的な資源・散在する資源との関係

3. 手法

例えば、“1年中楽しく歩けるために”という

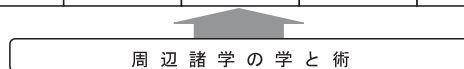
目的を設定し、何をなすべきかという課題を整理する。その上で、ハード・ソフトの手立てを組む。内発力を生かすことと、材料や人材をどう組み合わせるかというコーディネートが大切である。地元の人々が納得できるよう、ビジュアルな情報提供も重要となる。

川場の場合、単なる景観づくりでなく、地元経済の活性化を目的に検討している。

扱う対象：もの・かね・ひと・しくみ・ところ

可能性：地元の動き、対応する学と術

夢・希望・ねらい・目的	課題	手立て・策・処置	具備すべき条件(チェックリスト)	評価(4段階)
例えば 四季の魅力 人と車 駐車場	環境 景観 マーケティング 広告・宣伝 組織 人材	ハード 施工 設計 構法 材料 ソフト リーダー	美 +聖 用 強 時間経過への対処	優 ○ 良 ⊖ 可 ⊕ 不可 ×



(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

□ Announcement

研究会・催事の御案内 □

■2008年4月 日帰り見学会

当会恒例の行事となり、毎回皆様からご好評をいただいております近隣の見学会を新東名（第二東名）富士-静岡間プロジェクトにて実施。詳細は既に2月20日に文書にてご連絡済み。

●日程：平成20年4月7日(月) 日帰り

●費用概算：7,000円

内訳：観光バス（現地）、昼食、雑費

別途往復の交通機関は各自手配し費用も各自負担

●集合場所・時間：

◎集合場所：東海道新幹線 新富士駅
改札口前（一箇所しかない）

◎集合時間：4/7 10時40分厳守

参考：こだま567号 東京 9:23 - 品川 9:30 - 新横浜 9:45 - 新富士 10:38

●行程

新富士駅集合・10:50中型バスにて出発→第二東名富士IC(通過)→富士川橋→昼食→芝川高架橋
栈台→第二東名清水IC(通過)→清水PA(通過)→
吉原JCT→清水第四TN・長尾橋(通過)→猿田・
巴川橋→静岡駅15:40

○本件についてのお問い合わせは：計画・交通
研究会 橋本まで・電話03-3265-1774

■2008年4月 第30回通常総会・懇親会

●日時：平成18年4月22日(火)

理事会 16:30-18:00、

総会 18:00-19:00、

懇親会 19:00-20:30

●場所：プラザエフ（主婦会館）

●議題：・平成19年度事業報告

・同 収支報告

・会員移動の承認

・任期満了に伴う役員の改選

・その他

◎詳細は平成20年2月27日文書にて御連絡済。

■2008年4-5月 計交研・あて塾共催セミナー第Ⅳ講

●日時：平成20年4月23日(水)、5月14日(水)、
5月28日(水) いずれも17:00-19:00

●場所：計画・交通研究会会議室

◎詳細は追ってご連絡。

□ Backyard

事務局通信 □

■会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。

定例研究会や個別研究会の開催時以外は部屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご利用

下さい。個別研究会等で会議室を御利用になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド (Kodak)、液晶プロジェクター (APTi) が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し出し用ノート型パソコン (IBM Think Pad)、FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いただけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状況にあります。どうぞ、お気軽に御利用ください。

■個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につきまして、当会のフェロー会員・個人会員 (地域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教授がおられます。既送の会員名簿を御参照下さい) が個別に御相談・懇談に応じます。ご希望により日時を調整しますので、事務局まで遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的な研究課題・プロジェクト内容と、希望されるフェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

■原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

- ・ **Publication/Documents** : 刊行物・文献資料。
- ・ **Announcement** : 研究会・催事の御案内

会員による講演会等の御案内も随時掲載します。日時・会場・事務局等を明記願います。

・ **Report** : 報告

海外研修報告、国際会議参加報告等

●原稿執筆上のご注意

- ①原稿のテキストファイルを電子メール(推奨。本文挿入または添付ファイル)あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さい。願います。
- ②編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍 (上限4単位=1ページ分: 表題・図表を含む) になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。
- ③写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。
- ④締め切りは偶数月の15日 (必着) です。

■ホームページの刷新

ホームページを刷新しました。まだ不十分なところもありますが、逐次改善していきます。ご意見をいただければ幸いです。

アドレスは

<http://www.keikaku-kotsu.org/>

計画・交通研究会

会長	黒川 洸
副会長	森地 茂
副会長	石田 東生
事務局長	清水 英範
会報編集委員長	藤井 聡
会報編集責任者	橋本 昭夫

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

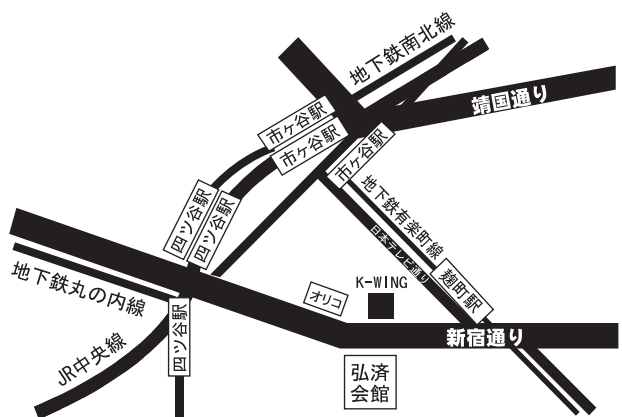
TEL=03-3265-1774

FAX=03-3221-5489

Homepage =

(新) <http://www.keikaku-kotsu.org/>

(旧) <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅麹町口から徒歩6分/地下鉄丸の内線四谷駅徒歩6分/南北線四谷駅徒歩7分/有楽町線麹町駅4番出口より4分

弘済会館前の大きなビル (オリコ) の右隣、1階にドラッグストア (クスリ) の入った小さなビル。